

「これからの時代を拓く 学校創り」

～子供も大人もワクワクする
授業・環境創りを通して～

令和7年7月15日
台東区立上野小学校
校長 田中 康雄

取組の方向性…「守・破・離」で考える

目的

児童一人一人の
資質・能力の最大化

手段

アタマ・ココロ・カラダを
フル回転させる良質な学び
教育活動の基本理念

児童の自己調整による学び

学びに向かう力・
人間性等

知識・技能

思考力・判断力・
表現力等

教師による指導

目的と手段の関係イメージ

離

【3学期】 / 【高学年】 自分で踏み出す時期
「自分で、できる」 責任感を培う

やってみよう

破

【2学期】 / 【中学年】 挑戦し、広げる時期
「きっと、できる」 積極性を培う

やりたい

守

【1学期】 / 【低学年】 自信・信頼を確立する時期
「やれば、できる」 自己有用感を培う

できた

目指すべき学校生活像：守・破・離で考える

離

【高学年】 技を自ら選ぶ
目的に応じた学習技能等の自己選択

破

【中学年】 技を広げる
多様な学習技能等の経験

守

【低学年】 技をもつ
基盤・基本となる学習技能等の獲得

もつべき意識：守・破・離で考える

モデル校報告①.....研究授業

時期	内容	学年	教科等	提案内容	講師等
5月	研究授業①	6年	社会	パフォーマンス課題	村上 桂一郎 統括指導主事
6月	研究授業②	3年	算数	習熟度別少人数指導＋ パフォーマンス課題	島山 繁善 統括指導主事
7月	研究授業③	2年	「情報」	情報モラル教育＋AI	静岡大・塩田 真吾 准教授
9月	研究授業④	全学級	各教科等	学習空間の活用	東京理科大・垣野 義典 教授
10月	研究授業⑤	1年	未定	未定	島山 繁善 統括指導主事
11月	研究授業⑥	4年	未定	未定	青山学院大・北澤 武 教授
12月					
1月	研究授業⑦	5年	未定	未定	青山学院大・北澤 武 教授
2月	研究のまとめ				
3月	次年度に向け				

モデル校報告①…研究授業①



5月26日（月） 6年・社会

モデル校報告①…研究授業①



一人一人をどこまで伸ばそうとしているか

モデル校報告①…研究授業①

第6学年 社会科学びのガイド

6年1組:

単元名:わたしたちの生活と政治

小単元:子育て支援の願いを実現する政治

評価規準

・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。【知識・技能】
・区議会の政策の内容や計画から実施までの過程、法令、予算との関わりに着目して、台東区の抱える課題を見だし、取り組みについて適切に表現している。【思考・判断・表現】
・台東区の抱える課題について、予想や学習計画を立てたり、学習振り返ったりして、学習問題を追求し、解決しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

本単元で目指す姿

・政治の働きを理解し、より身近な台東区の課題を議論することで、主権者としての責任や権利について早い段階から学び、社会における意思決定のプロセスや、民主主義の仕組みをより深く理解することができる。
・台東区の抱える課題について深く追求していくことで、区民の代表(議員)を選ぶ選挙の一票の大切さに気付くことができ、行動に移そうとする。
・学習の中で振り返りを行う際、班だけでなく、多数の児童に意見を伝えることで、社会的な事象を多角的・多面的に物事を見る力を付けることができる。

児童の実態

・これまでの学習を通して、「社→整理・分析→まとめ・表現」
・個人で課題設定する力が弱い
・ニュースでの話題や自主学習的な知識を求めたり、深く追求
・社会的問題について、捉え方
・全体的に捉えるところまで行っていない。

本単元で大切にしたい学び方

・一人一人の社会的な見方・考え方が広げられるように、インプットの学習を一齐指導で行い、アウトプット時には、班だけでなく他メンバーとも交流を行い、物事を多角的・多面的に捉えられるようにする。
・直接議員への提案を行う活動を通して、自分事として社会的な問題を解決していこうとする。

社会科の見方・考え方

・立場によって多様な考えや願いがあることに気付くことができる。
・区民の願いを実現することと政治との関わりを繋げて考えることができる。

情報のやり取りは活発だったか?

▲児童間

▲教職員間

➡授業中の

チャット72件

単元構想(全9時間) 単元を貫くテーマ:地方政治の仕組みを理解し、自分たちが政治参加する方法を考えよう

単元末に、学習したことを生かして社会参加を経験する「陳情書づくり」を行うパフォーマンスを提示し、学習意欲を喚起するとともに、児童の自己調整に学びを導入する。

【教師による一齐指導】+【児童の自己調整学習】+【パフォーマンス課題】

	一次 導入～つかむ 【教師による一齐指導】		二次 調べる～まとめる～ひろげる 【児童の自己調整による学び】		三次 いかす 【教師による一齐指導】
	1 2 一齐	3 4 一齐	5 6 調べる 5時間目②より個別 6時間目は②③④(前時)	7(本時)個別 8 個別	9 一齐
主な学習の流れ	○三権分立のしくみ ○日本の課題と向き合う ① 前時の日本国憲法の学びから地方行政に繋げる(国一地方の学習の流れを教科書から学ぶ) ② ダイヤモンドランキングを活用し、日本の課題に向き合い、課題への解決方法を考える。	○都議会・区議会・市町村議会のはたらき ○市役所・税金の使われ方 ① 選挙投票率の低下のグラフと台東区予算アップの資料を提示しズレから問いをもたせる。 ② 区議会議員の話を直接聞き、議会のはたらきについて学ぶ。 ③ 担任作成のPPで一齐講義を受ける。	○台東区の抱える課題を調べる ① 台東区議会の「4つの委員会」の活動を調べて台東区の課題を把握する。自分が一番解決したい課題を設定し、学びのサイクルで回していく。(一齐) ② 昨年度学習した思考ツールを使い、関係をまとめていく。 ③ 学習したことをアウトプットし、進捗状況を班で確認し合う。 ④ 6時間目に「陳情書」の作成に入る。キャンバの活用	○課題を把握し陳情書を作成する ① 陳情書の書き方を確認する。 ② 必要な資料を調べる。 ③ 学習したことを生活班の人にアウトプットし、進捗状況を確認し合い、違う視点からできるアドバイスを行う。 ④ 社会科の見方・考え方で振り返りを個人で行う。(バドレット)	○議員さんへ陳情書の内容をプレゼンする ○学習の振り返りを行う ① 区議会議員の方に直接、提案書を渡したり、プレゼンを行ったりして、自分たちの意見を直接伝える。 ② 学習してきたことをもとに、地方政治とは、何のためにあるのか、何を知り何が大切なのか、自分のことでまとめる。
評価の観点	・三権分立の学習から、地方政治への理解を把握し、自分なりに大切な言葉を抽出したり、地方政治への興味や関心を自分の言葉や図を用いて表現したりしている。(ノート・発言) 【知識・理解】		・自分の課題を見出し、学びのサイクルを回しながら、課題解決に向かっている。 【主体的】 ・学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追求して、解決を図ろうとしている。(バドレット・キャンバ・態度) 【主体的】 ・課題を解決するために多様な意見を調べたり、様々な立場になって考えたりすることができる。(キャンバ・発表) 【思考・表現】		・身に付けた資質・能力を生かして、区議会議員へ提案したい内容を分かりやすく伝えることができる。(発表) 【思考・表現】

◎問題意識を喚起すること
◎「見方・考え方」を働かせること

モデル校報告①…研究授業②



6月25日 (水) 3年・算数

モデル校報告①…研究授業②



追究のエネルギーを全ての児童に



モデル校報告①…研究授業②

第3学年 算数科学習プラン

【伴走者】ぐんぐんコース(3年1組教室)

のびのびコース(3年2組教室)

じっくりコース(4階算数少人数室)

単元名: 記ろくを整理して調べよう ～ めざせ『バツとマン』～	本単元で目指す姿 ・児童が『ワクワク』しながら主体的に学び、身近な事象を数理的に捉え、表やグラフを用いてデータを整理・分析し、見いだした特徴を根拠に考察・判断・表現できるようになることを目指す。 ・データの収集、整理、分析、結論といった統計的な問題解決の方法を『比較のメガネ』を通して体験的に学ぶことで、その有用性に気づき、活用できるようにする。 ・12月に行われる学習発表会では、地域の魅力を発信する調べ学習を協働的にに行い発表する予定である。その時に、調べた情報を比較したり大小をグラフで表したりすることを、自分たちでできるように、この学習を経験値として積ませる。 ・マニュアルに頼らず、様々なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえたり、掛け合わせて新たな価値を見いだしたりして、課題を解決したり意思決定をしたりする力を養う。社会に出てからも『生きて働く力』にするために。	児童の実態 第1学年では具体物を用いた分類整理や絵グラフ、第2学年では簡単な一次元表・棒グラフを用いたデータの学習を経験しており、データの分類整理の基本的な考え方は理解している。一方で自ら問いを見つけ、それをデータで解決するという経験は少ないため、課題設定の支援が必要となる児童も想定される。目的に応じてデータを整理する観点や、視覚的な表現から正確な数量や傾向を捉えることには、丁寧な導や支援が必要となる。 先日行った社会の地域調べの学習では、情報収集したことをグラフで表す児童は一人もいなかった。今後この学習を生かし、他の場面でも状況に応じてグラフを活用しようとする姿を見たい。 本単元で大切にしたい学び方(ぐんぐん・のびのび) 子供たちが自ら問いを見つけ、それを解決するためにデータを活用するという、探究的な学びのサイクルを重視する。目的のためにデータを表やグラフに表すのかという目的意識は、児童自身の問いを起点とすることでより内発的な動機付けにつながる。単元の導入から先行して、児童が身の回りの事象から興味のあることを見つけ、データで表される問いを具体化する活動に時間を掛けていく。データの収集・整理・分析・考察・表現といった学習のサイクルを、自らの問いへの解答を見付ける過程で体験的に学べるようにする。 学習の後半には、単元全体(特に自らの問いへの探究プロセス)を振り返り、数学的な見方・考え方や数理的な処理の有用性を自覚し、生活への活用機会を算る機会を設ける。その際、児童一人一人の問いや状況に応じてきめ細やかな個別支援や、同じような問いをもつ児童間での協働的な学び(調査方法や分析からの気づきの共有など)を促す。
評価標準 【知識・技能】 日常の事象(自ら見いだした事象を含む)について、観点別にデータを分類整理することについて理解し、表や棒グラフに表したり読み取ったりすることができる。 【思考・判断・表現】 目的に応じてデータを整理する観点に着目し、自ら収集・整理したデータを用いて、身の回りの事象について表や棒グラフを用いて考察したり、見いだしたことを分かりやすく表したりする方法について考え、説明している。日常の事象を数理的に捉え見通しを持ち筋道を立てて考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力、複数のグラフを比較して相違点を考える力。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら問いを見いだし、データを分類整理したり、それらを基に身の回りの事象について考察したりした過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。数学的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。		

単元構想(全10時間) 単元を貫くテーマ: 数学的な見方・考え方(『比較のメガネ』～と比べて、同じところ、違うところ)から理解した視点に着目させ問題解決に当たる力の育成

【教師による一斉指導】+【自由進度による学び】×【パフォーマンス課題】

		一次【教師による一斉指導(①～⑨:教科書内容)】課題設定～情報収集						二次【いわゆる自由進度学習による学び】(情報収集～)整理分析～まとめ表現			
ぐんぐん	0	1(① ②)	2(③ ④)	3(⑤ ⑥)	4(⑦ ⑧)	5(⑨)	6	7(本時)	8	9	
のびのび	0	1(① ②)	2(③ ④)	3(⑤)	4(⑥)	5(⑦ ⑧)	6(⑨)	7(本時)	8	9	
じっくり	1①	2②	3③	4④	5⑤	6⑥	7⑦	8⑧(本時)	9⑨	10	
主な学習の流れ		○単元のゴールを考える。 ○ゴールに向けた計画を立てる。 ①データを分類整理する方法や整理した結果を表にまとめる方法を理解する。 ②データを棒グラフにするときデータの大小の差が分かりやすいことや、棒グラフの読み取り方を理解する。 ③『その他』の意味を知り、データを分類整理する方法の理解を深める。 ④棒グラフのかき方を理解し、表から棒グラフにかき表すことができる。				⑤棒グラフのメモリのとり方について理解する。 ⑥学習内容を適用して問題を解決する。 ⑦一次元表を組み合わせた簡単な二次元表を眺めることができる。 ⑧単元の学習の活用を通して、事象を数理的に捉え、結論を導き出す。 ⑨1～4時間目の学習内容の定着を確認する。				○自らの問いに対する情報の収集状況を確認する。 ○収集した情報をグラフに整理する。 ○整理したグラフを分析する。 ○分析した結果を、考察し、まとめる。	
		⑩数直線と同様に、1日毎の表す数量に着目して、棒グラフを読み取ったり、データに合わせて1日毎の大きさを決めたりすることについて考え、説明している。【知・技】				⑪自らの問いに対する情報の収集状況を確認する。 ⑫収集した情報をグラフに整理する。 ⑬整理したグラフを分析する。 ⑭分析した結果を、考察し、まとめる。					
評価の観点		①データの値ちや置なりがないよう確認し、データを表に適切に分類整理することができる。【知・技】 ②表の棒グラフから読み取り、棒グラフの特徴や読み取り方について理解している。【知・技】 ③棒グラフの棒の長さに着目して、棒グラフでデータを整理するよさを考え、説明している。【知・技】 ④棒グラフのかき方を理解し、データを棒グラフに表すことができる。【知・技】						●学習のサイクル(情報収集・整理・分析～まとめ・表現)を踏まえて学習に取り組むことができる。【主体的】 ●身近な事象をデータで調べ、表やグラフに整理することに好奇心をもち、意欲的に取り組んでいる。【主体的】 ●データを分類・整理したり、表やグラフに表現したりすることの有用性や数量を比較したり特徴を見出したりすることの面白さに気付いている。【主体的】 ●学習を通して働かせた数学的な見方・考え方を振り返り、その価値に気づくことができる。【主体的】 ●この単元で学んだことを、今後の生活や他の学習場面で活用しようとしている。【主体的】			
視点	比べて考えさせたいこと	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
		正の半の表と数字の表	数字の表と棒グラフ	以前の棒グラフとその他がある棒グラフ	以前の棒グラフとその他がある棒グラフ	一つの目盛り5と目盛り1のグラフ	縦の棒グラフと横の棒グラフ	それぞれの表と一つのまとまりを表			
視点		・正の半を使う(0を表すから数えやすい) ・合計を比べる ※早く正確に記録するには?	・棒グラフは多い少ないが分かりやすい。 ・多い順に表べると順番も表せる。	・その他は数が少ないもの。	・その他の順番は最後。 ・棒グラフのかき方の理解(手順はここに載せる)	・1日毎の大きさを工夫する。	・目盛りから棒グラフを読みとつてもよい。 ・目盛りの読みとりからの手順(別紙で載せる)	・一つの表にまとめるのと分かりやすい。	 ●「〇〇と比べて～」		

【各WGからの提案内容】

・授業改善②	見方・考え方への意識付け 自由進度学習における学びの手引きの活用(メタモジに)
・デジタル活用②	スプシを活用した振り返り メタモジの活用における見取り
・学習環境②	オープンスペース開放 ホワイトボードシートの活用
・カリキュラム②	タイピングタイムの効果検証

◎チャレンジングな問題設定

◎「見方・考え方」を働かせる

深い学び

◎児童に委ねた 学習過程・方法

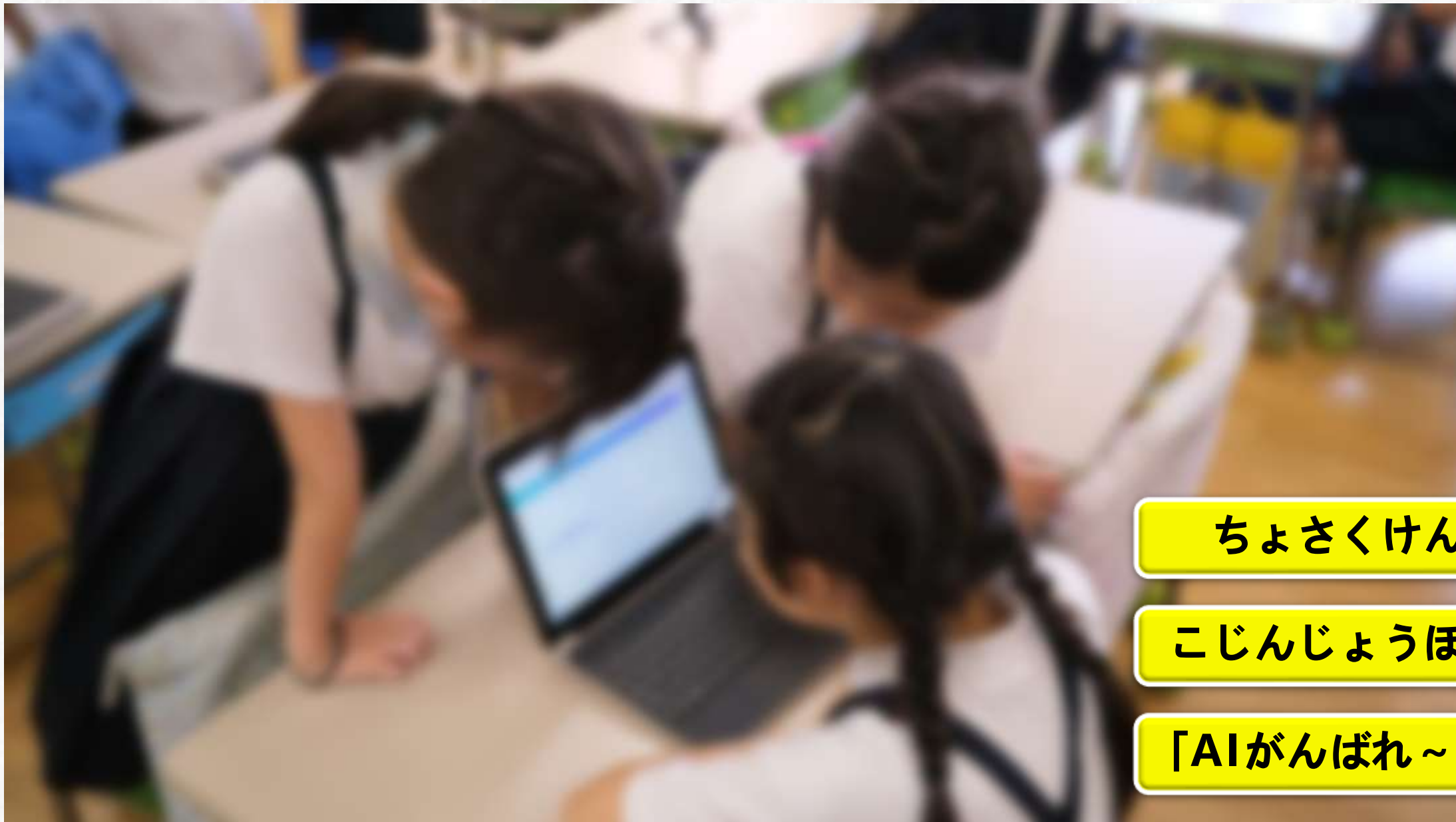
◎習熟度別少人数指導における 単元内自由進度学習

モデル校報告①…研究授業③



7月9日(水) 2年・情報Ⅰ

モデル校報告①...研究授業③



ちょさくけん

こじんじょうほう

「AIがんばれ~!!」

モデル校報告①…研究授業③

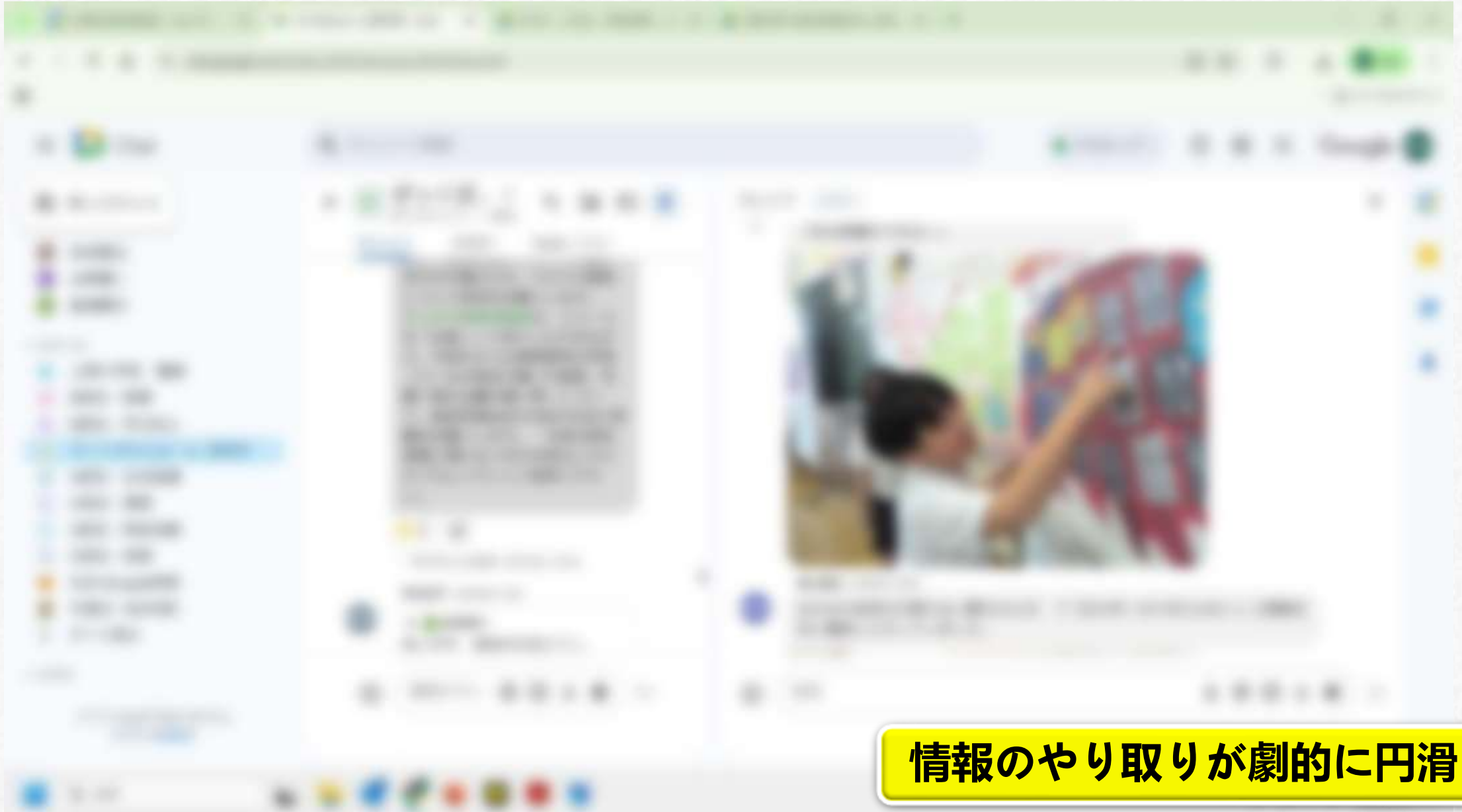
各種データ		2年生 研究授業			
教材名:考えよう！自分アイコンづくり		本授業で目指す姿 ・自分アイコンについて着目し、個人情報の漏洩や著作権について考える第一歩目を踏み出す。 ・学校で使う自分アイコンは、どんなものかいいかを考え、妥当なものを考える。 ・2年生なりにタブレットを操作し、作りたいものを作れるよう、試行錯誤する。 ・生成AIを体験し、最新のデジタル技術を体験する。		児童の実態 【情報リテラシー】 ・タブレットを使用し始めて7か月目。 ・カメラ、リンク集、クラスルーム、パドレット、Canva、ビスケット、カフォート、ドリルプラネット、タイピング練習を日常的に使うことができる。 【情報モラル】 ・学習として扱ったことはなく、意識していない児童が多い。 ・図工や生活の作品は、「学ぶ＝まねる」と価値付けていることもあり、著作権についての意識強化もしていない。(国語の調べ学習で出展を明記する学習は一度あり) ・日常でYouTubeやTikTokなど、動画メディアに触れている児童が多い。	
評価規準 ・個人情報の大切さや正しい判断・扱い方を知る。【情報モラル】 ・生成AIについて知る。体験する。【情報リテラシー】 ・タブレット端末を正しく操作できる。(マウス・パッド、キーボード、タッチ画面、Canva)【情報リテラシー】 ・学校外でも、アイコン等の個人情報に留意し、生活する。【道徳的実践意欲】				見方・考え方 ・発信が相手にどのように見られるのか。 ・著作権が引っかけられないか。 ・使うアプリやサイトを比べる。 ・何ができるのかを考える。 ・誰に見られているのかを考える。	
授業構想(全65分程度)					
流れ	導入		展開	作成活動	
時間	5分	5分	15分	20分	10分(以降次時)
主な学習内容	①本時の目標を知る。 「自分アイコンを作ろう」 ②どんなアイコンが考えられるのか、話し合う。 ・名前……今 ・好きなものの絵……誰だかわからない ・キャラクター……誰だかわからない ・写真……わかりやすい	③アイコンとはどんなところで使われているかを話し合う。 学校内(グーグル、パドレット、Canva) 学校外(LINE, YouTube, TikTok) ④アプリごとにアイコンは誰が見るかを考える。 ・友達 ・先生 ・知り合い ・知らない人(世界だれでも)	⑤どんなアイコンが適切か考える。 (先生として、今日やる作り方は考えている。) 現状: 名前の漢字 →読めない、つまらない、名前を知られる C:好きなもの →誰かわからない、キャラクターや写真の著作権 C:顔写真 →公開していいのか。悪用される可能性 ⑥妥当案の提案 「似顔絵をアイコンにしよう」「AIも使ってみよう」	⑦Canva作成 ・デザイン「SNS」→「LINEアイコン」 ・好きな色の丸図形を挿入する。 ・アプリ「EmojifyMe」を知る。 ・友達に写真を撮ってもらう。 ・生成AIに通す。 ・背景を除去する。	・余白部分のデザインをする。 (好きなもののイラスト挿入など) ・画像としてダウンロードする。 ⑧学校で使っているアイコンを作成したものに変更する。 ・Google ・パドレット ・Canva ⑨これからの生活で自分アイコンを決めるときの判断基準を改めて振り返る。 C:LINEなら顔写真使おうかな。 C:YouTubeは顔も出したくないな。
本授業のセールスポイント ・台東区のどの学校でも、実践ができる。(メタモジ等、費用のかかる準備が必要ない。) ・2年生でも情報モラルについて考えるきっかけづくりになる。(その他のSNS等の問題は、まだピンとこない児童が多い) ・2年生以上ならどの学年でも実践しやすい内容。 ・校内の曖昧になっていたアイコン問題にメスを入れる。(高学年は、アイコンなんでもいい、となってしまう) 【以下、校内研究主題「『これからの時代を拓く学校創り～子ども大人もワクワクする授業・環境創りを通して～』」 ・生成AIについても、触れることができる。(デジタル活用P) ・「教科 情報」の具体的実践事例の提案となる。(カリキュラムP) ・スムーズな児童のデジタル活用。(環境P) ・指導案にデータを入れて、見やすい、活用しやすい授業提案。(授業改善P) ・児童のワクワクを引き出すデジタル活用。 ・本授業に向けた準備時間は合計2時間30分。(校務改善P) (素案3案考察30分+初田先生に相談10分+校長・研究主任に相談10分+指導案作成30分+ canva試行10分+研修①10分+研修②40分)				懸念点 ・計60分程度の授業提案のため、国語や算数などの単元提案と比べると薄っぺらい。 ・現状ある教科の中では括りづらい内容。(図工？道徳？) ・台東区の環境であれば、どの先生でも実践できる内容ではあるが、ICTが苦手な先生に、取り入れていただけるか。 ・2年生の発達段階でレベルの高い内容・活動になっていないか。 ・都の研究には当てはまらない。(許可いただき済み)	

◎「未来志

◎「未来志向」の学び

◎「相手意識」や「目的意識」

モデル校報告②---Google Workspace



情報のやり取りが劇的に円滑に

モデル校報告③…学習環境デザイン



形態は機能に従う / 触発する環境